

製品安全データシート

作成/改定|2022年11月4日

管理コード

4-Nov-22

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	FD-SPY-C
製品コード	FD-SPY-C
会社名	株式会社風土
住所	福井市和田中二丁目2006番地3F
電話番号	0776-97-6806
FAX番号	0776-97-6807
メールアドレス	dentowashi@fudo-japan.jp
推奨用途及び使用上の制限	噴霧用抗ウイルスコート

2. 危険有害性の要約

GHS分類区分

物理化学的危険性 健康有害性	分類基準に該当しない 急性毒性(経口)区分外 急性毒性(経皮)分類できない 急性毒性(吸入:蒸気)分類対象外 皮膚腐食性/刺激性 区分外 (わずかな刺激を感じる場合がある) 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分外 生殖毒性 分類できない 特定標的臓器毒性(単回暴露) 分類できない 特定標的臓器毒性(単回暴露) 分類できない 特定標的臓器毒性(反復暴露) 分類できない 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。
環境有害性	水生環境有害(急性) 分類できない 水生環境有害(慢性) 分類できない オゾン層への有害性 分類できない

GHSラベル要素

絵表示	記載不要
注意喚起語	記載不要
危険有害性情報	記載不要

注意書き

安全対策

取扱い後はよく手を洗うこと。
涼しい所に置くこと。
容器を密閉しておくこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
環境への放出をさけること

救急措置

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

保管

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
施錠して保管すること。

廃棄

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
純水	95~99%	H ₂ O	対象外		7732-18-5
酸化スズ(IV)	0.5%以下	SnO ₂	(1)-551		18282-10-5
プラチナ	0.1%未満	Pt	対象外		7440-06-4
二酸化ケイ素(非晶質)	0.2%以下	SiO ₂	(1)-548		7631-86-9
モリブデン	0.1%未満	Mo	(1)-764		7439-98-7
セレンウム	0.05%未満	Se	対象外		7782-49-2
酸化タングステン	0.5%以下	WO ₃	(1)-1178		1314-35-8

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

労働安全衛生法

すず及びその化合物(政令番号:322)
セレン及びその化合物(政令番号333)
モリブデン及びその化合物(政令番号603)
タングステン及びその化合物(政令番号337)

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

皮膚に付着した場合

皮膚を速やかに洗浄すること。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

直ちに医師に連絡すること。
口をすすぐこと。

応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤

粉末消火剤、二酸化炭素、散水、水噴霧、乾燥砂。

使ってはならない消火剤

情報なし

特有の危険有害性

製品は不燃性であるが、加熱によって分解して有毒なガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

製品は不燃性であるが、周辺火災の場合、火元への燃焼元を断ち、風上から適切な消火剤を使用して消化する。消化のための放水等による製品が河川、下水に流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護

危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業者は適切な保護具(8. 暴露防止措置及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項	漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 風上に留まる。 低地から離れる。 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。 環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
回収、中和、封じ込め及び浄化の方法・機材	危険でなければ漏れを止める。 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
二次災害の防止策	大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項	容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

技術的対策	ポリエチレンなどの容器に密閉して冷暗所に保管する
保管条件	容器は直射日光や火気を避けること。 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。 容器は凍結の恐れのないところへ保管すること。 施錠して保管すること。
容器包装材料	消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用することがのぞましい。

8. 暴露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(暴露限界値、生物学的暴露指標)	
		日本産衛学会 (2015年版)	ACGIH (2015年版)
純水	未設定	未設定	未設定
Pt	TWA0.002mg/m ³	未設定	未設定
酸化スズ(IV)	未設定	未設定	未設定
二酸化ケイ素(非晶質)	未設定	未設定	未設定
モリブデン	未設定	未設定	未設定
セレンウム	未設定	0.1mg/m ³	0.2mg/m ³
酸化タンゲステン	未設定	未設定	TWA1mg/m ³ STEL 3mg/m ³

設備対策

本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器の保護具 必要に応じて個人用呼吸器保護具を使用すること。

換気が不十分な場合には、適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具 保護手袋を着用すること。
眼の保護具 眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具 顔面用の保護具を着用すること。
必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観	物理的状态	液体
	形状	液体
	色	半透明液体
臭い		弱刺激臭
pH		3~6
融点・凝固点		データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲		データなし
引火点		なし
燃焼又は爆発範囲		データなし
比重(密度)		1.05~08 (20°C)
溶解度		水に易溶
自然発火温度		データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の条件においては安定である。
化学的安定性	通常の条件においては安定である。
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	酸または電解質と混合すると成分は凝集沈降する
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし

11. 有害性情報

急性毒性	経口	GHS:区分外
	経皮	分類できない
	吸入(蒸気)	分類できない
	吸入(粉じん)	データ不足のため分類できない。
	吸入(ミスト)	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		GHS:区分外に該当する
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		GHS:区分外に該当する。
呼吸器感受性		データ不足のため分類できない。
皮膚感受性		データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性		データ不足のため分類できない。
発がん性		陰性
生殖毒性		データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回暴露)		データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(反復暴露)		データ不足のため分類できない。
吸引性呼吸器有害性		データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性有害性)	データ不足のため分類できない。
水生環境有害性(長期間有害性)	データ不足のため分類できない。
オゾン層への有害性	モントリオール議定書の附属書に列記されたオゾン層破壊物質を含まないため分類されない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
-------	-------------------------------

汚染容器及び包装

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規則

海上規制情報	IMOの規定に従う。
UN No.	危険品に該当しない
Proper Shipping Name	W-35P5M
Class	危険品に該当しない
Sub Risk	危険品に該当しない
Packing Group	危険品に該当しない
Marine Pollutant	Not Applicable
Harmful Liquid Substances	Not Applicable

航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.	危険品に該当しない
Proper Shipping Name	W-35P5M

Class	危険品に該当しない
Sub Risk	危険品に該当しない
Packing Group	危険品に該当しない
陸上規制	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	危険品に該当しない
品名	W-35P5M
クラス	危険品に該当しない
副次危険	危険品に該当しない
容器等級	危険品に該当しない
海洋汚染物質	非該当
有害液体物質	非該当
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	危険品に該当しない

国内規制

品名	危険品に該当しない
クラス	危険品に該当しない
副次危険	危険品に該当しない
等級	危険品に該当しない

特別の安全対策

輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。

危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒しもしくは破損しないように積載すること。

移動の際に、転倒、衝撃、摩擦、圧壊、漏洩などを生じないようにする。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

運搬中の事故等により災害が発生した場合は、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。

15. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)(すず及びその化合物、モリブデン及びその化合物、セレン及びその化合物、タングステン及びその化合物)

化審法
大気汚染防止法
消防法
船舶安全法
航空法

該当しない
該当しない
該当しない
該当しない
該当しない

16. その他の情報

連絡先
参考文献

株式会社風土
NITE GHS分類公表データ
EU CLP Regulation, AnnexVI
CHEMWATCH社 GHS-MSDS
RTECS(2006-2010)
記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。